

形質転換植物デザイン研究拠点

成果報告会

令和7年度

日時

令和8年3月6日(金)

場所

筑波大学総合研究A棟
110室(公開講義室)

タイムスケジュール

13:00-13:05 開会あいさつ 福田 直也【T-PIRCセンター長】

セッション1

13:05-13:25 農業管理の転換がコーヒー根圏-果実間微生物動態に及ぼす影響
市橋 泰範【理化学研究所 環境資源科学研究センター】

13:25-13:45 窒素固定クレードにおける根粒共生の鍵転写因子の機能解析
壽崎 拓哉【筑波大学 つくば機能植物イノベーション研究センター】

13:45-14:05 根粒における空間的な遺伝子発現パターンの網羅的理解
伊藤 義晃【株式会社生物技研・解析部】

14:05-14:20 休憩

セッション2

14:20-14:40 高速型キメラミオシンXIの異種発現がトマトの
原形質流動と植物成長に与える影響
小原 惇【早稲田大学大学院・先進理工学研究科】
(富永 基樹【早稲田大学・教育・総合科学学術院】)

14:40-15:00 配偶子融合因子遺伝子のゲノム編集による種なしメロンの作出
井川 智子【千葉大学大学院・園芸学研究科】

15:00-15:20 トマト近縁野生種由来のSIKLP遺伝子の過剰発現による
果実サイズ制御機構の解明
池田 裕樹【宇都宮大学農学部】

15:20-15:40 シダ植物スギナにおける形質転換法の確立
加藤 大貴【愛媛大学・大学院理工学研究科】

15:40-15:55 休憩

セッション3

15:55-16:15 人工キメラ酵素 Lac-CBD 導入形質転換ポプラの易酵素糖化性評価
小口 太一【筑波大学 つくば機能植物イノベーション研究センター】

16:15-16:35 トマトを利用した「非典型的」ストリゴラクトンの機能解析
瀬戸 義哉【明治大学農学部】

16:35-16:55 Possible roles of Micro-Tom genes for circadian clock,
photoperiodic regulations, and ascorbate biosynthesis
in tolerance to continuous light
溝口 剛【国際基督教大学】

16:55-17:00 閉会のあいさつ 柴 博史【T-PIRC副センター長】

事前参加登録不要

<https://gene.t-pirc.tsukuba.ac.jp>



つくば機能植物イノベーション研究センター
Tsukuba-Plant Innovation Research Center



筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター
形質転換植物デザイン研究拠点